

交流集会

11月7日(日) 14:20～15:50

■交流集会7：第4会場（403会議室）

認知症高齢者の身体合併症治療時の看護スキルと看護管理方法の開発

湯浅美千代（順天堂大学医療看護学部）、野口美和子（沖縄県立看護大学）、
酒井郁子（千葉大学大学院看護学研究科）、大塚真理子（埼玉県立大学保健医療福祉学部）、
杉山智子（順天堂大学医療看護学部）、島田広美（順天堂大学医療看護学部）、
飯田貴映子（千葉大学大学院看護学研究科）、諏訪さゆり（千葉大学大学院看護学研究科）、
吉田千文（千葉県立保健医療大学健康科学部）、小野幸子（宮城大学看護学部）、
麻生佳愛（福井大学医学部）、丸山優（埼玉県立大学保健医療福祉学部）

認知症を有する高齢者が内科・外科治療を受ける際の問題点についての指摘は多いが、その解決策は不十分な現状がある。そこで我々は、認知症を有する高齢者が治療をうける場において提供される看護スキルと看護管理方法の開発を目指し、認知症高齢者の治療・看護に先進的に取り組んでいる実践者へのヒヤリングや小規模調査を行ってきた。交流集会では、開発の中間報告として現在の研究結果を紹介し、病棟で日々ケアを提供している方々や研究者の方々との意見交換を行い、広い範囲での適用可能性を検討したい。

■交流集会8：第5会場（402会議室）

エビデンスに基づく老年看護実践の促進を目指して

松岡千代（兵庫県立大学看護学部）、濱吉美穂（兵庫県立大学看護学部）、
石橋信江（兵庫県立大学看護学部）

エビデンスに基づく実践（EBP）の推進は、看護を含めたヘルスケア領域全般において重要課題となっている。しかし日本において、EBPを具体的に実行する方略については、まだ広く知られていないのが現状である。そこで本交流集会では、主に米国アイオワ大学看護学部を中心として開発されたEBP実行モデルを紹介しながら、日本における老年看護EBPの普及と発展のための方略と課題について、参加者と意見交換をすることをとおして共に探っていききたい。

■交流集会9：第7会場（503・504会議室）

地域で支える生きがいのある高齢者の生活

温井智美（群馬大学医学部附属病院看護部）、岩岡ひとみ（全国福祉理美容師養成協会）、
小須賀昭雄（松江市社会福祉協議会）、千葉由香（共生型グループホームさくらおか）

平成21年度内閣府主催の事業でNPO先進国である英国を訪問し、高齢者の生活を支える行政とNPOのパートナーシップを学んだ。派遣団は看護師、NPO職員、ケアマネージャーなどの専門職であった。交流会では「地域で支える生きがいのある高齢者の生活」をテーマに英国の医療・福祉の現状と多職種連携について、各専門分野の視点からの報告と共に、日本における高齢者の生活を支える多職種連携の在り方について話し合いたい。